

町の要望に対して、宇都宮市長は「芳賀町への延伸は、県央地域における公共交通の利便性向上につながることから、芳賀町と連携を図りながら一体的に検討していく」とコメントし、検討組織として「仮称 芳賀・宇都宮基幹公共交通検討委員会」を11月に設置しました。



▲芳賀・宇都宮基幹公共交通検討委員会



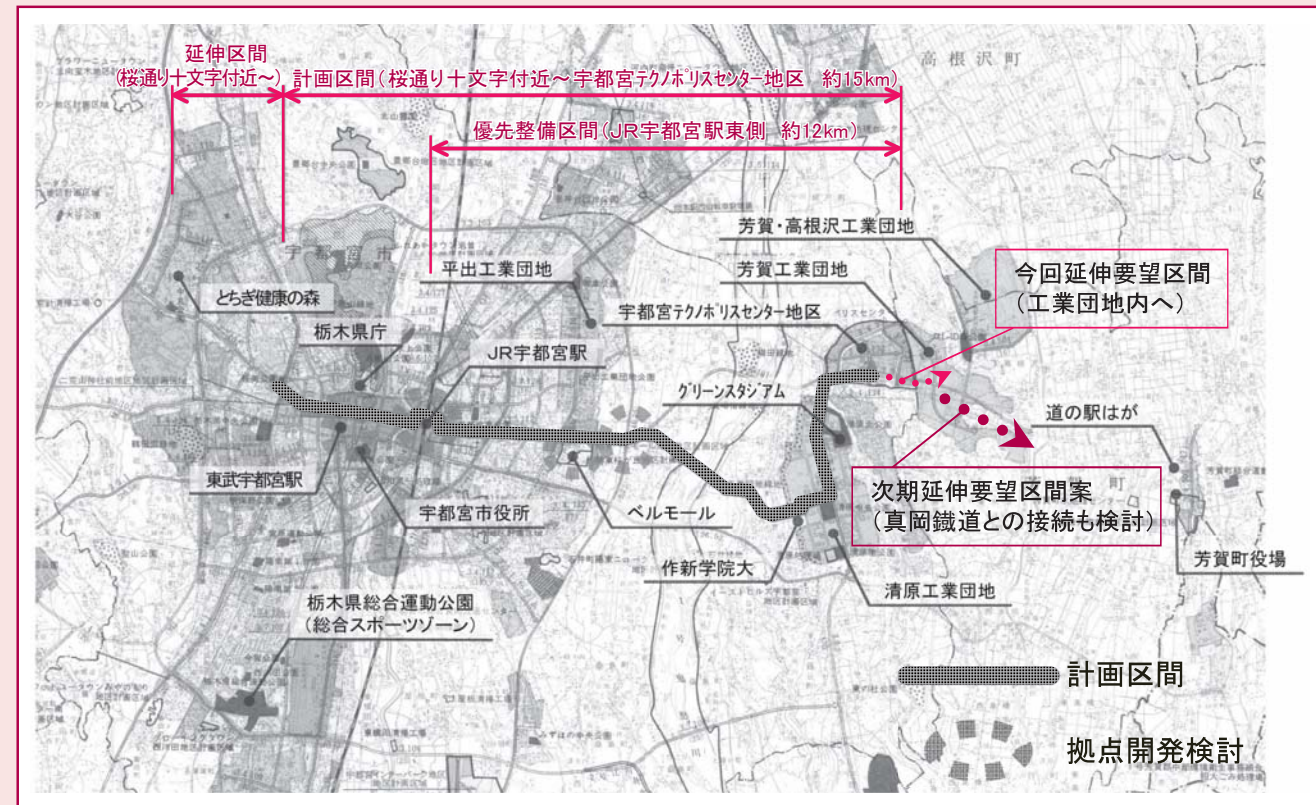
▲同委員会冒頭で挨拶する宇都宮市長

そして11月21日、第1回の「芳賀・宇都宮基幹公共交通検討委員会」が宇都宮市役所で開催されました。この席上で、宇都宮市が8月に実施した、清原工業団地の企業や団地周辺の大学・短大、高校を対象にしたLRT利用の見込みなどの調査結果を説明しました。この結果を踏まえ、宇都宮市は通勤通学のバス利用者の全員、企業来訪者の半分以上がLRTに乗り換えると想定しました。さらに芳賀工業団地の従業員が加わると、1日に3,855人、往復で7,710人が利用すると見込み、一般利用者と合わせて年間7億円以上の収入が見込めると説明しています。

JR宇都宮駅東口から芳賀工業団地周辺までの区間は約15キロメートルです。

当面の延伸区間として、宇都宮市計画のテクノポリスセンター地区から芳賀工業団地周辺までの約2.5キロメートル前後を想定していることから、町では芳賀工業団地や芳賀・高根沢工業団地に立地する企業の従業員を対象に、LRT利用意識調査を実施する予定です。

▶ LRT整備構想図



今後、町では宇都宮市と連携し、議会や芳賀町工業団地連絡協議会の協力を得ながら、立地企業や住民の皆さんからもご意見を伺い、LRT整備を進めていきます。

ぜひ広報紙中面の封筒を使って、ご意見をお寄せください。

特集 芳賀町とLRT (次世代型路面電車)

企画課企画財政係 【☎028(677)6012】

去る10月23日に、豊田征夫町長と小林隆志議会議長が、宇都宮市長を訪問し、「LRT整備に関する要望書」を提出しました。

LRT (次世代型路面電車) の導入に関しては、約20年前に宇都宮市が新交通システム研究会を立ち上げ、市東部地域などの現状把握と、新交通システム導入にかかる検討課題の抽出を始めました。この間、宇都宮市民、企業への説明会を幾度となく開催していました。

当初芳賀町では、商工会などで芳賀町LRT推進委員会を組織し、勉強会を実施していました。



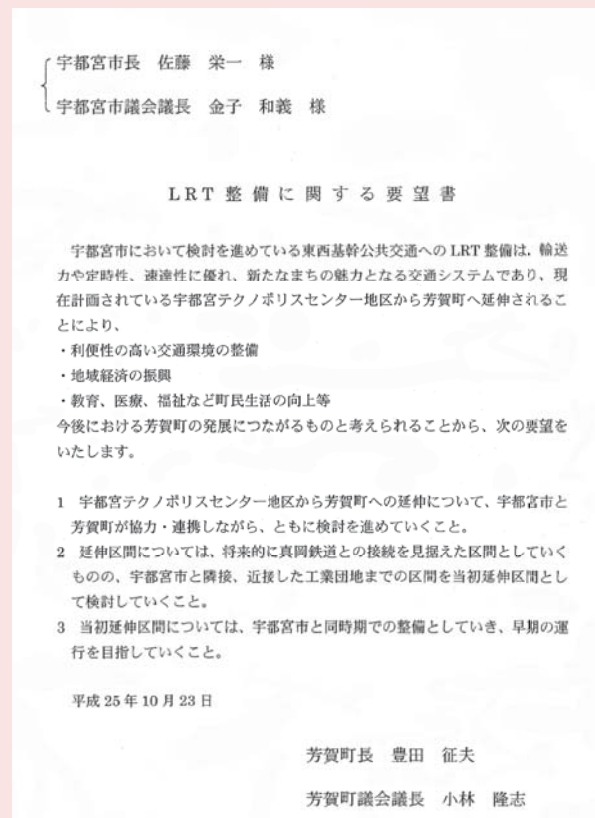
▲宇都宮市長と市議会議長に要望書提出



▲LRT看板

2期目となった佐藤栄一宇都宮市長は、今年の3月に「東西基幹公共交通」の実現に向けた基本方針を発表し、平成25年をLRT元年と位置づけ、JR宇都宮駅東口から宇都宮テクノポリスセンターまでを優先的に進めることを表明しました。

このため町では議会と協議し、芳賀町までのLRT延伸を要望する「LRT整備に関する要望書」を、宇都宮市長と宇都宮市議会議長に提出しました。



▲宇都宮市長への要望書(写し)



▲朝の通勤時間帯の混雑 (かしの森公園付近)

この要望書は、宇都宮市が事業主体となっているLRT構想の区間延伸が、芳賀町の発展につながるものと判断し、市と町が協力・連携して進めることを求めるものです。